

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、**麻痺性貝毒の原因種とされるギムノディニウム・カテナータムが最大で16細胞/mL**、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最大で2細胞/mL確認されました。また、魚類に対して有害とされるコクロディニウム・ポリクリコイデスが最大で0.10細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水では、麻痺性貝毒の原因種とされるギムノディニウム・カテナータムが大島中央で0.08細胞/mL、青瀬山で0.04細胞/mL確認され、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が栄喜奥で0.07細胞/mL確認されました。また、魚類に対して有害とされるコクロディニウム・ポリクリコイデスが藻津で0.04細胞/mL、栄喜奥で0.08細胞/mL確認されました。

ギムノディニウム・カテナータムにつきましては1細胞/mL（警戒基準）を上回っており、二枚貝（食用を含む）の毒化を引き起こす恐れがあるので十分注意してください。コクロディニウム・ポリクリコイデスは注意基準が10細胞/mLとなっており、環境条件等によっては増殖する可能性がありますので、引き続き養殖魚の飼育管理には十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁指所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ギムノディニウム・ カテナータム
A 藻津 (-/36.3m) 【09:20】	0	20.6	34.0	7.7	0	0	0
	2	20.5	34.0	7.8	0	0.04	0
	5	20.1	34.3	6.9	0	0	0
	★ 8	20.0	34.4	7.1	0	0	0
	10	19.8	34.4	6.6	0	0	0
	15	19.6	34.4	6.4	-	-	-
	20	19.4	34.5	6.4	-	-	-
B 大島中央 (-/30.2m) 【09:30】	0	20.6	34.0	7.2	0	0	0
	★ 5	19.9	34.4	7.0	0	0	0
	10	19.6	34.4	6.3	0	0	0
	15	19.4	34.5	6.2	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/48.7m) 【09:39】	0	20.7	33.2	7.5	0	0	0
	5	19.9	34.4	7.1	0	0	0
	★ 10	19.6	34.5	7.6	0	0	0
	15	19.6	34.5	7.6	-	-	-
D 栄喜奥 (-/11.3m) 【10:00】	0	21.1	30.3	8.1	0	0	0
	★ 5	20.2	34.4	6.7	0	0	0
	10	19.8	34.5	6.1	0	0	0

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	クロロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ギムノディニウム・ カテナータム
E ヒロウラ (-/26m) 【10:26】	0	21.1	32.1	8.2	0	0.12	0
	2	20.4	34.3	7.5	0.08	0.10	0
	★ 4	20.3	34.4	7.2	0	0	0
	5	20.1	34.4	7.1	0.10	0.40	0
	10	19.7	34.5	6.3	0	0	0
	15	19.6	34.5	6.2	-	-	-
	20	19.6	34.5	6.2	-	-	-
F 青瀬山 (-/16.4m) 【10:09】	0	21.4	32.9	8.0	0	2	0
	5	20.2	34.4	7.3	0	0	0
	★ 7	20.2	34.4	7.0	0	0	<u>16</u>
	10	19.9	34.5	6.2	0	0	0

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

貝毒原因プランクトンのモニタリングのため、藻津及びヒロウラの0m、2m、5mの深度から採水した海水の濃縮検鏡を実施しています。

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。

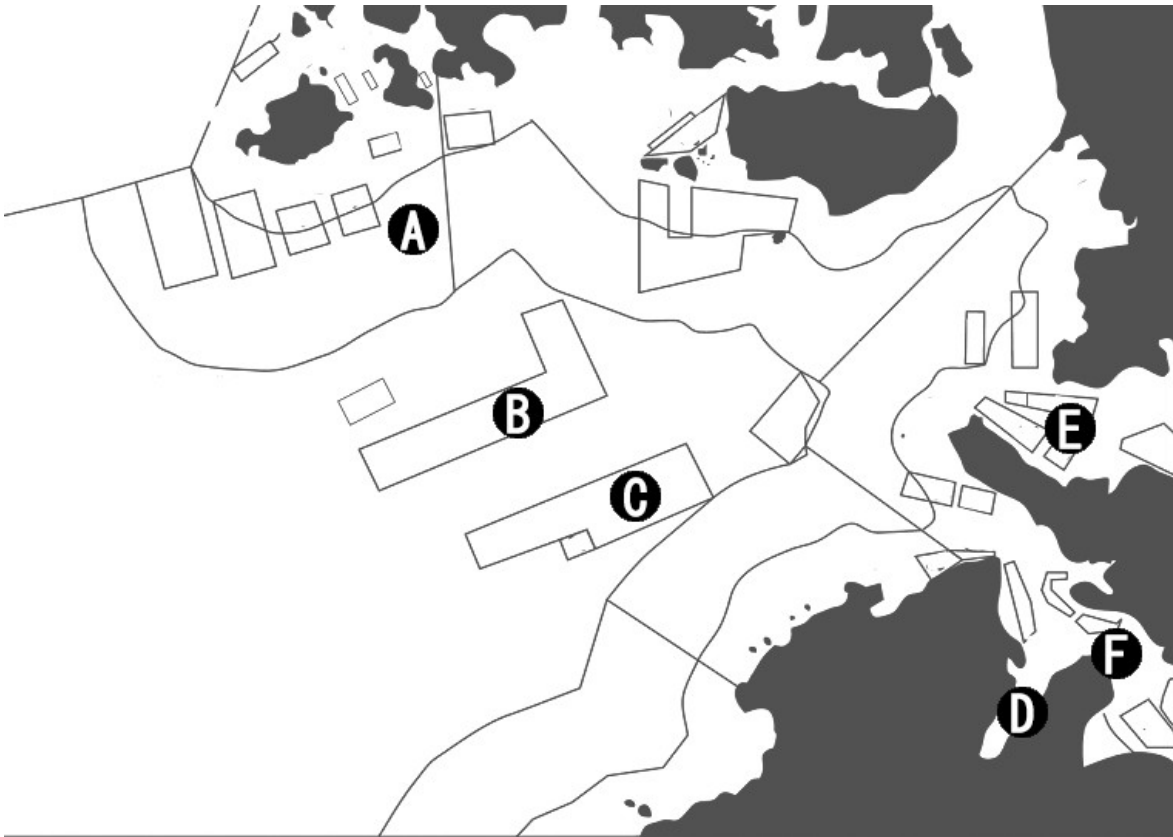
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
クロロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	3～5月
ギムノディニウム・カテナータム	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

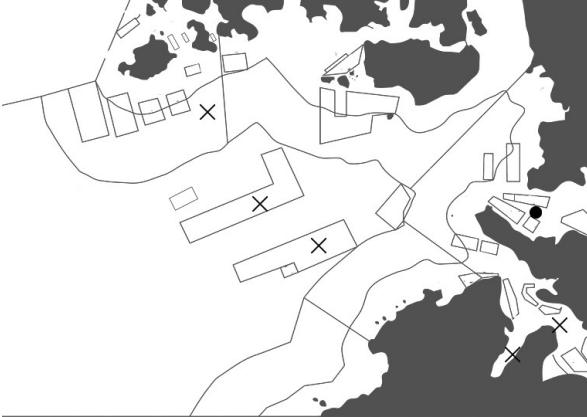
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。

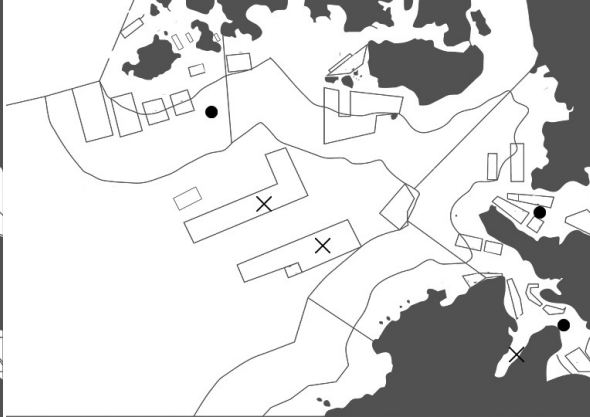


- A: 藻津
- B: 大島中央
- C: 小筑紫中央
- D: 栄喜奥
- E: ヒロウラ
- F: 青瀬山

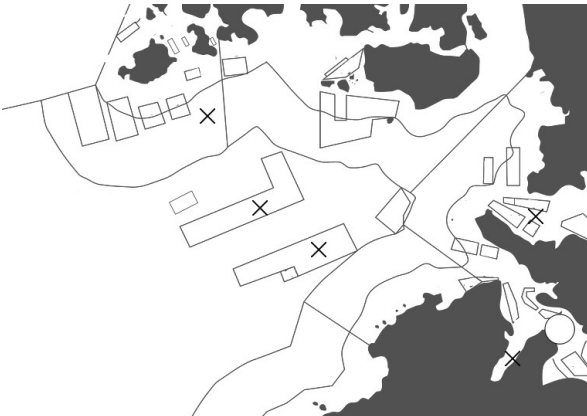
コクロディニウム・ポリクリコイデス
最大細胞密度



アレキサンドリウム属
最大細胞密度



ギムノディニウム・カテナータム
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色
黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

